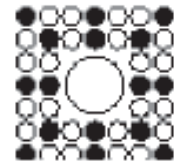


Newsletter of the British Council Japan Association

# BCJA Newsletter

No.32

May, 2016



## ● お知らせ ●

### 奨学基金への寄付を募ります

BCJA 奨学基金は、BCJA 会員の有志の方々からの寄付金を基盤として、英国留学生の支援活動を着実に進めてきております。今年度も奨学生の募集を行いますので、奨学基金へのご寄付をお願い申し上げます。

(詳しくは、本ニューズレター12 ページをご覧ください。)

#### 募金計画

- ◆ 寄付金額: 一口 5,000 円
- ◆ 口座番号: 00180-0-426794 (ゆうちょ銀行)
- ◆ 加入者名: BCJA 奨学基金  
同封の振込用紙をご利用くださいませ。

### 年会費の納入をお願いします

BCJA 運営のため、年会費の納入をお願いいたします。

#### 納入方法

- ◆ 年会費金額: 2,000 円
- ◆ 口座番号: 00180-0-426794 (ゆうちょ銀行)
- ◆ 加入者名: BCJA 奨学基金  
同封の振込用紙をご利用くださいませ。

### BCJA 役員および執行部を募集いたします!

BCJA の運営のためにご協力いただける方を随時募集しております。Google グループなどで活動も行ってまいりますので、是非ご連絡ください。

#### ご連絡先

- ◆ Google グループ URL  
<https://groups.google.com/forum/?hl=ja#!forum/bcja-member>
- ◆ メールの方は: [ishiikayoko@hotmail.com](mailto:ishiikayoko@hotmail.com)

### 2015 年 BCJA 年次総会について



BCJA 会長 青柳昌宏

2015 年の BCJA 総会については、昨年に引き続きまして西田先生のご厚意により根津美術館の講堂を使わせていただいて、2015 年 11 月 15 日 (日) に開催させていただくことができました。なお、総会の後に、開催中のコレクション展「物語をえがく-王朝文学からお伽草子まで-」を鑑賞させていただきました。また、懇親会は、場所を変えて開催させていただきました。以下が議事の内容になります。

#### ◆BCJA 総会 (14:00-14:30)

##### (1) 会長報告と審議

15 年目を迎えた BCJA 奨学金は、例年レベルの応募数があり、優秀な奨学生 5 名を英国留学に送り出しました。一方、減少する会員数により、奨学金への寄付総額は、大幅な減少傾向にあります。奨学金の運営を維持するためには、BCJA 奨学生に対する会員登録への積極的な勧誘および役員会への参加勧誘などを検討する必要があります。奨学生独自の OB 組織について、準備状況にある。これらの課題について、議論を行った。

##### (2) BCJA 奨学金報告: ニューズレター 32 号参照

##### (3) 会計報告と承認: ニューズレター 32 号参照

##### (4) ニューズレター・ホームページ報告: ニューズレター 32 号参照

##### (5) 新役員および新執行部の選出

会長: 青柳昌宏

会計: 島津幸男

講演会および AGM 担当: 西田宏子、山口晶子

ニューズレター担当: 石井加代子

BCJA スカラー担当: 斉木臣二

役員：白鳥令、青柳昌宏、平正臣、池島大策、出来尾格  
(敬称略)  
の方々が承認されました。

◆コレクション展見学 (16:15-17:00)

◆懇親会 (17:00ー)

(総会についてのお問い合わせは、  
masa\_aoyagi5@yahoo.co.jp までお願いいたします。)

2015 年度BCJA英国留学奨学金の審査を終えて

——募金へのご協力に対する感謝とお願い

BCJA 英国留学奨学金審査委員会 委員長 白鳥 令

英国に留学もしくは研究で滞在した経験のある人たちが組織をして居る BCJA (British Council Japan Association) が運営する「BCJA 英国留学奨学金」の歴史も、今年で 12 年目となります。

この奨学金は、日本が経済大国になり豊かな国になったとの理由で英国政府奨学金「British Council Scholarship」が日本を除外することになった現実を受けて、かつて英国政府の奨学金を受け英国に学んだ経験を持つ人々が、「日本の GNP は大きくても、研究者たちはまだ貧しい」と考えて、それなら少しでも英国政府奨学金の抜けた穴を埋めようとの趣旨で設立した奨学金です。そこには、かつて支援を受け、さまざまに先進的知識を身に付けさせて貰った英国への「恩返し」の意味もあったのでした。

この BCJA 英国留学奨学金には、その後 12 年の歴史の中で、この奨学金を受けて英国で学んだ若い人たちも参加し、募金活動に参加するようになって、現在に至っています。この奨学金は、英国留学、英国での研究のためなら何にでも自由に使える 15 万円という少額の奨学金ですが、この奨学金を受ける人々の質の高さに注目が集まっています。英国の大学や研究機関でこの奨学金の授与者に追加の奨学金を与えるケースが多くなり、「金額は少ないけれど質は高い」奨学金として価値を認められるようになっているのです。

オクスフォード大学やケンブリッジ大学では、大学の認定する奨学金を受けている学生は学部学生でも袖(そで)の長いガウンを着ることが許されていることは、よく知られています。時には、この大学の認定する奨学金授与者に、実業家の息子や伯爵の長男のような金持ちが選ばれることがあります。その時は、奨学金授与者としての名誉だけを享受して袖の長いガウンを着、実際の奨学金は貰わずに他の人にまわすことがあります。個人の少額の寄付の集積で運営されて

いる「BCJA 英国留学奨学金」は、日英の架け橋として、このような、それを授与されるのが名誉と感ずるような奨学金を目指しているのです。

本年度も、BCJA 英国留学奨学金を目指して、42 名の本当に優秀な応募者があり、その中から 5 名の方々に奨学金を差し上げることが出来ました。本年はすべて大学院レベルの研究者で、留学先はそれぞれ専門分野で特にすぐれた実績を持つ英国の大学や研究機関です。受け入れ先が多様なように、専門分野も「国際開発」「コンテンポラリーアート」「公共衛生」「経済ジャーナリズム」「運輸政策(鉄道)」とさまざまです。共通しているのは、奨学金を授与された方々の社会に貢献したいとのあふれるような情熱と使命感です。これらの方々が、将来、日本や世界で活躍される姿が、今から目に浮かびます。

今後も BCJA 英国留学奨学金を存続できるよう、本奨学金の趣旨をご理解の上、BCJA 会員をはじめ英国と関係のある方々に、善意の寄付を心からお願い申し上げます。

2015 年度奨学金授与者リスト

名前	留学先 研究機関	研究分野	所属/出身校
内藤春香	The London School of Economics and Political Science	国際開発と人道危機	早稲田大学
長谷川 高宏	City University London	金融ジャーナリズム	東京外国語大学
山本 浩貴	University of the Arts London	現代美術	一橋大学
白髭 牧人	University College London	交通・都市計画	Texas State University
東田 全央	The University of Sheffield	公衆衛生学	大阪府立大学大学院

BCJA 英国留学奨学金の寄付の方法

- ◆ 寄付金額： 一口 5,000 円
- ◆ 口座番号： 00180-0-426794 (ゆうちょ銀行)
- ◆ 加入者名： BCJA 奨学基金

## 2014 年度 BCJA 英国留学奨学金授与者からの近況報告

### 実施報告書

篠原肇

はじめに

2014 年 BCJA 奨学生として、Cavendish Laboratory, University of Cambridge Department of Physics (ケンブリッジ大学キャベンディッシュ研究所, 物理学科)の博士課程に留学している、篠原肇(しのはらはじめ)と申します。今回は現在までの英国留学に関する報告をさせていただきます。

研究

私は、物理学専攻の中でも、物性物理学の実験系という、実際に材料を混ぜ、材料を合成し測定をするという実験過程を含んでいます。特に量子物理のフラストレーションと呼ばれる物質内のスピンと呼ばれる磁石のような性質の相互作用を調べています。物性物理分野は学部・学科ごとの垣根が低いこともあり、学内外、国内外で、共同研究が盛んになりやすい傾向があります。現に私は物理学科に所属していますが、化学科、材料科学科、地学科とも共同研究を行っています。数ヶ月に一回ペースで Skype ミーティングをアメリカやインドのチームとも行っています。学部生の指導も、教員からの評判が良かったこともあり、継続的に依頼されるようになったことにより、半ば共著者の論文が自動的に増えていっている状況です。(もちろん解析はしています。) 国際会議や各種シンポジウムにも積極的に参加しています。

現在では新設のマクスウェルセンター産学連携拠点に異動しました。私が所属する持続可能性に関する物理学科のコミュニティ(The Winton programme for the physics of sustainability)関連の拠点が中にあります。私も現在ではコミュニティ唯一の日本人として、日々を送っています。研究グループ自体も非常に風通しがよく、どんなに著名で高齢な方でも、お互いにファーストネームで呼び合います。同じ建物内や徒歩 1 分圏内の建物で、国際的な会議やセミナーをやっていることも日常茶飯事で、興味のあるものは分野にこだわらず、時間の許す限りできるだけ参加するようにしています。この他にも、産学連携・開発学のイノベーションチームとのプロジェクトリーダーを担当させていただき、実際にタンザニアのスラムまで赴き、水質調査と水の浄化の物性実験をするなど、多様な経験をつめている印象です。

課外活動

ケンブリッジ大学の生活は、勉強や研究一辺倒のいわゆる「がり勉」スタイルではなく、「よく学び、よく遊べ」を体現したような環境です。季節に合わせたイベントもあり、積極的に参加しているだけで、自ずと文化背景や習慣が身に付きます。例えばスコットランドのお祭りであるバーズナイトでは、ウィスキーやハギスが出され、アイルランドの祭りである聖パトリックデイにはペイリーズが振る舞われました。おそらく 100 回

は軽く超えるくらいには、スーツやガウンを着て参加するフォーマルなディナーや、タキシードで出席するパーティに参加しました(写真)。その過程で、最初は何をすればよいのかもわからず、参加して立っただけで苦痛であった立食パーティも、現在では国籍関係なく初対面の人ともうまく話せるようになってきました。



写真: Jesus College, end of the year dinner. タキシードなど正装で行われる。

私はコーフボール(オランダ式バスケットボール)というスポーツに取り組んでいます。オックスフォード大学との試合に出場したりインカレで優勝候補にあがったりと、充実した戦績を残しています。始めは人種差別を受けるなどしましたが、どうかしのいだ結果、最終的には次期キャプテン候補に推薦される程には、クラブの中心メンバーとなりました。バーシティマッチと呼ばれるオックスフォード大学との伝統の一戦にはスターティングメンバーとして出場し、「(ハーフ)ブルー」の称号を得ました。また日本代表選手として、日の丸をつけてアジアの大会に出場するに至りました。

一般的に日本では文武両道教育が推奨されていますが、この点はイギリスでも同様のようです。私は、上記サステナビリティの日本人史上初の特待生であること、スポーツの日本代表選手であることが評価されたようで、ケンブリッジ大学の体育会組織に当たるホークスクラブ(Hawks Club)から表彰いただきました。アジア人の受賞は非常に稀のようです。

終わりに

今後も BCJA 奨学生として、日本代表として日の丸をつけていることを日々実感し、向上に務めていければ幸いです。なお、私は個人ブログを運営しており、本レポートの内容に関連するさらに詳しい内容をアップしております。ご興味があればご訪問いただければ幸いです。(www.hajime77.com) (2014 年度 BCJA 奨学生、Cavendish Laboratory, University of Cambridge Department of Physics)

## 2014年度 BCJA 英国留学奨学金授与者からの近況報告

### BCJA 留学レポート

重本祐樹

2014年度 BCJA 奨学生に採用して頂いた重本祐樹と申します。ケンブリッジ大学工学博士課程でデザインマネジメントグループに所属し、ものづくりにおけるデザインの知の研究をしております。私の研究や大学生活について報告させていただきます。

#### 研究紹介

私は、工業製品の外観を通じて、デザイナーが製品コンセプトを消費者にどの程度正確に伝達可能であるのか、またその度合いに影響を与える社会文化的要因は何であるのか、という研究をしております。本研究では、既存の経営学の文献をベースに心理学、社会学、人類学の学識を援用した新手法及び分析理論を構築し、機能性ではなく感情的購買欲求に訴える消費者買行動を引き起こすプロセスを統一的にモデル化しています。従来のデザイン工学研究の枠組みではこれまで焦点が当てられて来なかった視点の探求であり、またデザイナーの能力を科学的手法で検証した研究はほとんどなされておらず、研究成果を企業のイノベーション戦略やマネジメント戦略に組み込めるよう発展させていきたい所存です。

ケンブリッジ大学工学部は6つの学科から成っており、私が所属するのは製造業・マネジメント学科の研究所である **Institute for Manufacturing** です (IfM の愛称で親しまれています)。IfM ではその名の通り製造業一般に関する研究が行われており、産業構造や国際的製造業など産業全体を俯瞰的に研究するグループから、技術マネジメントや製造工学、イノベーション研究といったより分野特化型のグループ、また光化学(レーザー研究)グループやインクジェットグループなどの技術開発部も存在しています。デザインマネジメントグループ (DMG) もその中のひとつであり、私の研究の他には、例えば新製品開発における消費者参画や、医療器具のデザインプロセス、空間デザインと消費者行動への影響などの研究が行われています。

#### 日常生活

英国では博士課程院生は、まだ一人前ではないが独立した研究者として見なされるため、自分で研究を進めながら定期的に指導教官に報告をし、アドバイスを頂きます。しかしながら、これは二年目以降であり、一年目はその半人前になるため、いくつか授業と課題が課せられます。私も産業構造や国際ビジネスのモデル、産業研究におけるビッグデータの取り扱いなどについて勉強、議論をしました。中でも社会科学の哲学 (Philosophy of Social Science) という授業で、社会科学を科学足らしめる歴史的、理論的背景としての哲学を学び、どうすれば移行行く社会の現状を捉える事ができる

のか、という研究の根幹を鍛えられます。この分野への教育の質がケンブリッジの強みのひとつであり、とりわけ日本と欧州の大学教育が一線を画す所ではないでしょうか。(日本の大学院には所属したことが無いので、私が部分的に見聞きした情報が間違っていましたら申し訳ありません。)

また、博士課程院生は自分の研究の傍ら、しばしば学部生や修士過程の学生への指導も行います。私も昨年、今年とマーケティング専攻の修士生への **Supervision** (少人数ディスカッションクラス) の機会を頂きました。80 分間の授業が2週に1度あり、学生3~5人程度のグループを担当します。学生は各回に課題を与えられ、**Supervision** の2日前までにエッセイを提出、それを **Supervisor** (指導教官) が採点し、学生の理解と意見を元に、授業内容とディスカッションの準備をするという流れです。そのため、2週に一度とは言え、**Supervision** の週は約 15 名分のエッセイの採点と授業準備に追われ、中々大変です。しかし、私自身にとっても新しい知識と出会えたり、学生を指導する立場について考える良い経験となりました。また、論文の査読の仕事なども受ける様になり、本業の研究とそれに関連する業務を上手くバランスを取りながら進めて行きたいと思います。

#### 課外活動

正課活動以外では、大学のバドミントン部とカレッジのボート部にも所属し、練習や試合に励んでいます。バドミントン部では二年間副会長を務め、週に3日ほど練習と対外試合、**Varsity Match** という年に一度のオックスフォード大学との定期戦、およびマネジメント業務に従事しました。私の在学中にケンブリッジ大学・オックスフォード大学バドミントン部による日本への合同遠征も行いう事ができ、2週間の滞在で、北は新潟から南は京都まで、様々なバドミントンチームと練習試合をしたり、バドミントンに関連する企業を訪問させて頂いたり、日本の大学生との交流もさせて頂きました。ご支援頂いた皆様への謝意が絶えないと共に、今後もこうした日英交流が継続されることを切に願っております。

また、カレッジのボート部にも所属し、早朝からケム川で練習しています。夏は朝日を浴びながらとても気持ちいいのですが、冬の寒さと暗さは中々心身に堪えます。**Easter Term** (3学期) には大学における一年で一番大きなスポーツイベントである、**May Bump** というボートレースが行われ、今年は何とか1軍出走できるよう、トレーニングに勤しんでいます。特に私はボート部の中で最も背が低い部類であり、競技の特性上、身長差がそのまま優位性となるのが辛い所ですが、他の部員との競合は根性論に依存しながらなんとか頑張っています。(カレッジボート部1軍の平均身長は 190cm 強ほどで、大学選抜に至っては 2m を越えるそうです。)**May Bumps** のレースは時間にしてたった数分間ですが、この瞬間のためにボート部員は皆、一年を通じてトレーニングと練習を重ねます。それゆえ、レースの昂揚感、レース後の達成感は一塩です。

スポーツ以外の課外活動では、ヘルメス倶楽部(セルウィ

ンカレッジのスポーツ紳士倶楽部)の書記に任命頂きました。本倶楽部は、セルウィンカレッジのメンバーで、カレッジのスポーツ振興に対して顕著な貢献を納めた者が招待される会員制倶楽部です。私はバドミントンの大学選抜とボート部における活動が認められ、昨年から会員となりました。主な活動理念はカレッジスポーツの発展への尽力、および文武両道を旨とする会員同士の知的交流です。ここまではセルウィンカレッジのホームページにも記載されていますが、一応秘密倶楽部となっており、心苦しいですがこれ以上の活動内容は他言が禁止されています。つきましては、もし今この報告書を読んで頂いていて、ケンブリッジへの留学を検討されている方が居りましたら、是非ともセルウィンに出願して、文武両道を邁進し、ご自身で入会して全容をご確認頂ければと思います。

さて、以上で私の報告を終えさせていただきます。末尾になりますが、こうした私の活動は BCJA を始め、多くの方々のご支援により成立しており、心より御礼申し上げます。同時に、私自身のため、また日本の将来のため、そして日英の長期的良好関係に寄与できるよう、今後とも精進に努めて参りますので、何卒温かく見守って頂けたら幸いです。最後まで読んで頂き、ありがとうございました。

(2014 年度 BCJA 奨学生、Design Management Group, Institute for Manufacturing, University of Cambridge)

## 2014 年度 BCJA 英国留学奨学金授与者からの近況報告

### 留学レポート

浜田 将太

#### 1. はじめに

2014 年度 BCJA 奨学生としてご支援いただき、ロンドン大学キングス・カレッジに留学し、疫学・公衆衛生に関する研究を行ってきました。留学当時、アカデミアに活動拠点を移してまだ1年でしたが、まわりの方々にご理解いただけたこともあり、当時の職場を退職して、留学することを決意しました。所属や肩書がなくなって一個人となる時には不安な気持ちになります。渡航後しばらくして、BCJA 奨学生という“お墨付き”をいただけて心強く思いました。改めまして、関係者の皆様にお礼申し上げます。

#### 2. 留学の準備

少し留学するまでの様子を振り返ってみます。これから留学を考えている方々の参考になれば幸いです。私の場合は、大学院で体系的に学問を学ぶというのとは異なり、研究に打ち込みつつ、あわせて勉強もできる環境を求めています。そのため、行きたい大学や大学院を決めるというよりも、研究

室レベルで留学先を探す必要がありました。約半年前から留学の準備を始め、行き先のリサーチに1、2 ヶ月、連絡・内諾に1 週間、ビザの準備(まず受け入れ先にビザの種類を確認する)に2 ヶ月を費やしました。いろいろと忙しく、ビザの手続きを進められなかった時期もあり、結局、渡航準備ができたのはぎりぎりになってしまいました。

まず、留学先の研究室は、自分がやりたいことや学びたいことができる環境であるかどうか、そして研究室の論文の発表状況、学外の委員会活動や役職、研究費獲得状況などを確認して、いくつかの研究室をリストアップしました。そして、研究室の教授に「私はこれまでこういうことをやってきて、先生のところでこんな研究をしたいんですが…」というメールを送りました(メールの返事をくれない先生もいらっしゃいますが、くじけずに!)。確証はありませんが、イギリス時間の朝以降(日本時間の夕方以降)にメールした方が、メールに気付いてもらいやすいかもしれません。結局、受け入れてくれることとなった研究室の教授から「今は空きポストがなくて給料を出せないけど、それでもいいなら歓迎するよ」という返事をいただきました。当時はフェロウシップのあてがあったこともあり(いろいろあって結局は受け取れませんでした)、受け入れてくれるところが決まってほっとしました。その後、一度電話面接を受け、留学を決定しました。面識のない外国人と電話で話すのはなかなか難しいので、できればスカイプ等でお願ひした方が話しているときの雰囲気わかりやすい良かったかな、と少し後悔しました。ともあれ、無事にイギリスに渡りました。

#### 3. 活動内容

私の留学先(Department of Primary Care and Public Health Sciences)は、最寄り駅がロンドン・ブリッジで、ロンドンの新しいランドマークである The Shard のすぐ近くにありました。留学中に研究室の移転があり、Guy's キャンパス内に引っ越しました。

さて、近年、日本でも日常診療で蓄積された医療情報(いわゆる医療ビッグデータ)を研究に活用する試みが盛んになっています。主な情報源は、電子化が進んでいる診療報酬請求書(レセプト)であり、対象者の基本特性、診断、薬剤、費用等の情報が集積されています。一方で、イギリスでは30年ほど前から、プライマリケアにおける電子医療記録(electronic medical record、EMR)が研究利用を主目的としてデータベース化され始めました。そのひとつが CPRD (Clinical Practice Research Datalink)で、今回の留学で私が研究に用いたデータソースです。CPRD には、対象者の基本特性、診断、薬剤の他、生活習慣や検査値などのデータも収集されており、広範な研究課題に対して、疫学的な研究手法により、これまでに数々の知見が得られています。

具体的には、私は、数万人規模の患者データを基に、80歳以上の高齢糖尿病患者の治療実態と疾病管理について検討を行いました。例えば、糖尿病の診断や治療効果の判定に用いられる HbA1c 値と死亡リスクとの関連を調べたとこ

る、HbA1c 値が高すぎても低すぎても死亡リスクが高かったことから、ほどよく管理することが重要である可能性が示唆されました。研究成果は、イギリスやヨーロッパで開催された学会、および国際的な老年医学系の雑誌にて発表しました。

#### 4. 日常生活

就業時間は、基本9時から17時ですが、同僚たちは各自のライフスタイル(子どもの送り迎えなど)にあわせて調整していました。17時以降まで残っている人はほとんどいません。最初は「5時に帰るなんて…」と思っていたのですが、しばらくすると、私も何の違和感もなく、定時に帰宅するようになりました。帰宅後や休日に家で仕事することもありましたが、家族と過ごせる時間が取りやすいメリットはとても大きいように思いました。また、女性にも働きやすい職場のようで、実際に私のお世話になった研究室では、教授、講師を除き、研究員はほぼ全員が女性でした。

気候は一年を通じて日本よりも過ごしやすかったように思います。夏は短く、うだるような暑さではなく、ゲリラ豪雨もなく、冬は日照時間が短いものの、あまり雪が降ることもありませんでした。余暇では、日本にいたときのように、家でごろごろすることはめっきり減りました。夏の仕事終わりや休日には、妻や友人と公園でのんびりしたり、テニスや卓球をしたり、博物館や美術館に行ったりしました。イギリス生活では、“ごはんまずい問題”はみんなの心配事ですが、最近ではおいしい日本食レストランもありますし、食材もいろいろ手に入るので、自炊すればあまり困ることもありませんでした。基本的に物価は高いのですが、マーケットではいろんな国の食事がリーズナブル(5ポンド〜)に楽しむこともでき、プチ贅沢を味わうこともできます。

#### 4. 帰国後の活動

約2年間の留学を終えて帰国し、現在、医療経済研究機構というところで働き始めたところです。当機構の主な活動のひとつは、研究や調査を通じて、将来に向けてより良い医療環境(社会保障制度や医療提供体制など)を実現していくための説得力のある政策提言を行っていくことです。留学中に習得した知識や研究手法などを活かして研究を進展させていくとともに、同様の分野で研究を行っている方々と留学中の経験を共有し、今後の研究につなげていきたい、と思っています。

#### 5. おわりに

今回の留学では、研究に集中できる環境に身を置くことができた他、自分のワークライフバランスを見直す良いきっかけとなりました。また、最近、イギリス留学経験者の集まりに初参加させていただきました。普段は出会わないような、各分野の第一線で活躍されている方々と、イギリス留学を通して知り合うことができたのは予想外の喜びでした。イギリス留学のOBとして、留学を支援し、帰国後も留学生をつないでくれるBCJAの活動に、これから貢献していければと思います。

す。

(2014年度BCJA奨学生 Primary Care and Public Health Sciences, King's College, London)

## 2014年度BCJA 英国留学奨学金授与者からの近況報告

### BCJA 奨学生留学レポート

当麻 さくら

#### 1. はじめに

2014年度BCJA奨学生としてご支援いただき、2014年9月より英国、West Dean CollegeのBooks and Library Material Conservation・書物と紙資料の保存修復コースに留学いたしました。

BCJA奨学生として選出していただいたとのニュースを受けた時は、保存修復という分野に注目していただいたことを大変嬉しく思うと同時に、この先、日本でもこの分野の専門家のニーズが高まって行くことを実感致しました。それは、思い立ってから何年もかかって進学にこぎつけた私にとって大変な励みとなり、また自分が英国で学ぶことで保存修復分野の発展に少しでも貢献したいという決意を新たにすることができました。この場をかりて、深く感謝申し上げます。

#### 2. West Dean College への進学と学び

West Dean Collegeへ進学する以前は、書物の修復工房であるNPO法人書物の歴史と保存に関する研究会にて書物保存修復の基礎を学んでおりました。勤務先の神戸松蔭女子学院大学図書館では、破損図書の手当を担当し、図書館内の開架図書が抱える保存問題への実践的な解決を司書の方と共に探ってきました。それらの経験をベースに、West Dean Collegeでは、技術、理論、科学と総合的に学び、Book conservatorとしての土台を堅めることを目的に進学致しました。

West Dean Collegeは保存修復とアートに特化した学校です。フルタイムのコースは、書物、家具、セラミック、金属、時計(Clock)のコンサーベーション、楽器製作、ファインアートがあります。また、テキスタイルの工房や、バラエティーに富んだアートとクラフトのショートコースも随時開講されています。私の専攻するBooks and Library Material Conservationでは、主に書物と地図などの記録資料の保存修復を学びます。図書館やアーカイブスのコレクションをイメージしていただけると分かりやすいかと思います。もちろん個人所蔵の資料やミュージアム内の紙資料も範疇に入ります。

#### <ワークベンチでの仕事>

West Deanのカリキュラムの大きな特徴は、授業がプロジェクトベースで進められることです。各自が実際のオブジェクトを担当することで、リサーチ、ドキュメンテーション、保存処置

計画、そして実際の処置から、保存容器製作まで、一貫して取り組みます。

私が最初に担当したのは、18世紀の英仏辞典でした。表紙は外れ、綴じの破損により本体部分が分裂していました。背表紙の革も劣化が激しく、書物としての機能を回復するにはオリジナルの背革は使えない状態でした。新しい背を革で作成し、見た目も元通りにすることもできましたが、あえてそれは選択しませんでした。綴じを補修し、表紙は綴じの支持体であるコードと和紙で接合、オリジナルの背は辞書本体と共に箱に収納できるよう、プラスチックのフォルダーを作成しました。(写真1)

### 1) 18世紀 革装 英仏辞典の保存修復処置



処置前

処置中



処置後

容器に収納

### 2) 19世紀 革装 馬のレース年鑑の保存修復処置



処置前

処置後

その他の2つのプロジェクト(写真2)のほか、様々な時代の製本サンプルを作成し、構造上の特徴やダメージが起こる理由についての理解を深めました。

保存修復の仕事は、実際の処置だけが仕事ではなく、逆に、できるだけオブジェクトに直接介入しないことが基本理念です。修復処置は少なからずオブジェクトに改変を与える可能性があるからです。歴史的背景、オーナーの意図、今後の利用頻度など考慮して、オブジェクトが安定した状態で長く保存されるための必要十分な処置計画が求められます。もちろん、素材やダメージの状態によって出来ることも決まってきます。分析し「決定を下すこと」がこの仕事の最もコアな部分と言えます。実践を通して、各段階で様々な問題ぶつかることは、技術はもちろん、的確な判断を下す格好のトレ

ーニングでした。また、一つとして同じ状態のオブジェクトはなく、7人のクラスメートはそれぞれのプロジェクトによって違った経験します。お互いの問題や学んだ技術をシェアすることで、7人分のケーススタディーを学ぶことができました。

また、劣化のしくみや接着剤について等、科学の授業で学んだことが、即ワークベンチの仕事と結びつけて考えられるのは大変面白く、XRF や FTIR などの機器を使った分析機器が使えることは、私にとってとても刺激的でした。保存容器や、革の保存処置の専門家を招いた特別授業も、集中して特殊な技術と知識を身につけるまたとない機会でした。



3) 年度末の展示。製作物や、研究成果を学外の方にも見ていただきました。

### <さまざまな素材を学ぶ>

West Dean で学ぶ大きなメリットの一つに、自分の専攻以外の素材のコンサバターと交流できることがあります。他の素材の加工技術、道具やトリートメント方法を見たり、気軽に質問できる環境は、私の好奇心を大いに駆り立て、そこから自分の仕事に繋がる新しいアイデアを得ることもできました。また、陶芸や金属加工に挑戦する機会もあり、特にフォーージ(鍛冶)の面白さにハマりました。自分の専門である紙以外の素材と対峙し、体でその性質を理解することは新鮮な驚きです。自分で鉄を叩いて作った革漉きナイフは、今後も永く手元で活躍してくれるはずですよ。

### <West Dean での生活>

West Dean は Edward James 氏の持ち家であったプリントという石造の建物を中心に、氏が芸術の発展と保存に帰依したいという思いで設立した College と、Garden, House から成る機関です。自身も詩人、芸術家であった Edward 氏がサルバドール・ダリを始めとするシュールレアリストのパトロンであったこと、彼の祖父が多くの絵画や彫刻、民俗資料を収集していたことで、建物の中には多くの芸術品が収蔵・展示されています。また、West Dean の森や庭は一年中本当に美しく、初めて到着した時はこの世にこんな美しい場所があるとは！と思ったほどでした。毎朝毎晩、羊の歩く風景や庭の花木に見とれ、こんな所でやりたかった勉強ができるなんて心の底から幸せだと感謝せずにはいられませんでした。そ

んな美しい光景に囲まれつつも、私たち College の学生は、担当するプロジェクト、実技課題、レポート等のペーパーワークでいつも山ほど締め切りがあり、目が回るのにも気がつかないくらい 忙しい日々を送ります。しかも、多くの学生は学校の敷地から徒歩1分の寮に住み、最寄りの街チチェスターまでバスで行かない限り周囲にお店はない、というほぼ軟禁状態。しかし、良くも悪くも毎日顔を合わせ苦楽を共にした West Dean の仲間は、大きな家族のような存在となりました。学生は、国籍も年齢もバックグラウンドも様々。ものづくりやアートが好きなのも多く、いつも創造力を刺激されていました。また、アジア人学生持ち回りで、アジアごはん会を開いたりもしました。そんな仲間と、美しい環境のおかげで、West Dean の日々は濃厚にそして瞬く間に過ぎてゆきました。



4) West Dean House.



5) 教室としても使われる Old Library

<今後の働き方>

授業内外で、多くの美術館等を訪問し、英国が持つ素晴らしいコレクションはもちろん、保存修復の現場を見て回ったことは貴重な経験でした。進行中のプロジェクト、現場での工夫、設備や材料道具、雇用形態などを見聞し、今後、アジア人である自分はどこでどのように仕事をしてゆくの、今後の働き方を模索するきっかけとなりました。

また、West Dean での経験を通して、世界の各地域でのコンサーベーション事情にも目が向くようになりました。そして、夏にはインドのデリーにある Indira Gandhi National Centre for the Arts(IGNCA) でインターンシップをする機会に恵まれ、保存修復の国際機関である ICCROM 主催の、

Re-organization of museum storage workshop にも参加。博物館のストレージの環境改善について学びました。

今年度は一旦学校を離れ、現在は引き続き IGNCA でインターンとして活動中です。2016年9月には West Dean に戻り、残りの1年で MA コースを修了する予定です。West Dean College で学んだことを基盤に、さらなる研鑽に励みたいと思います。(sakurtohma@blogsopt.jp)

(2014 年度 BCJA 奨学生, Books and Library Material Conservation, West Dean College)

2015 年度 BCJA 会計決算報告書  
(2014.11.1~2015. 10.31)

(一般の部)

収入の部

科 目	金 額
前年度繰越金	△248,085 円
年会費@2,000	164,000 円
合 計	△84,085 円

支出の部

科 目	金 額
ニューズレター	38,880 円
総会案内状	10,800 円
発送費	92,111 円
封筒代	4,162 円
アルバイト	60,000 円
文具	19,365 円
Web 更新費	21,034 円
振込手数料	12,034 円
合 計	258,860 円

2015 年 10 月 31 日現在の資産状況

次期繰越 (a)	△342,945 円
----------	------------

(BCJA 奨学基金の部)

収入の部

科 目	金 額
前年度繰越金	555,089 円
寄付金	593,000 円
合 計 (b)	1,148,089 円

支出の部

科 目	金 額
奨学金@150,000×5 人	750,000 円
振込手数料	2,700 円
小計 (c)	752,700 円

2015 年 10 月 31 日現在の資産状況

次期繰越 (a+(b-c))	395,389 円
----------------	-----------



2016年度 BCJA 奨学基金趣意書

2016年1月31日

BCJA 会長 青柳昌宏

BCJA 奨学基金は、2000年よりBCJA会員の有志の皆さまからの寄付金を基盤として、英国留学生の支援活動を着実に進めてきております。昨年度は、5名の留学希望者に対して、奨学金を授与することができました。

今年度も奨学生の募集を行いますので、奨学基金へのご寄付をお願い申し上げます。

記

一口 5,000円 二口以上でお願い申し上げます。同封の郵便振込用紙に、振込額、住所、氏名をご記入の上、下記口座宛にお近くの郵便局でお手続きいただければ幸いです。

ご寄附頂きました方々への領収書等の発行は特に致しておりませんが、必要であればご連絡、或いはご寄附の際に振込用紙にその旨、ご記載下さいますようお願い申し上げます。

尚、御礼状に関してはNewsletterにて代えさせていただきますことを御理解下さい。

口座記号番号:00180-0-426794

加入者名:BCJA 奨学基金

事務局 島津幸男

〒745-0004 山口県周南市毛利町 3-37-1-612

連絡先 Tel:090-8773-1024 Fax:0834-32-4030

e-mail: shimazu@herb.ocn.ne.jp

\*\*\*\*\*

BCJAの銀行口座のお知らせ

金融機関名: ゆうちょ銀行

金融機関コード:9900

店番: 019

店名:0一九店(ゼロイチキユウ店)

科目: 当座

口座番号: 0426794

受取人名: BCJA ショウガクキキン

要注意!

総会参加費等、BCJA への振込時、ネットバンキングをご利用の会員の皆様には、次の点をご注意下さい。

振込先 : ビーシージェイエー(BCJA)

2015年度 BCJA 奨学基金協賛者一覧

2015年10月現在

協賛者総数 80名 総額 593,000円
派遣者数 5名 奨学金総額 750,000円

協賛者氏名 (敬称略 順不同):

Table with 4 columns of names: 田中 晋, 榊端希子, 平松幸三, 佐藤修二, etc.

BCJA ホームページについて

ホームページ担当

BCJAのホームページhttp://www.bcja.net/では、過去のニューズレター閲覧、BCJA英国留学奨学金、BCJA活動状況、メンバー向け案内などがご覧になれます。

Googleグループ[bcja]のご利用案内

Googleグループ担当

BCJA会員の情報交換、情報伝達などに活用していただくために、Googleグループの中にBCJA会員専用グループとして、[bcja]グループを新規に設定いたしました。

